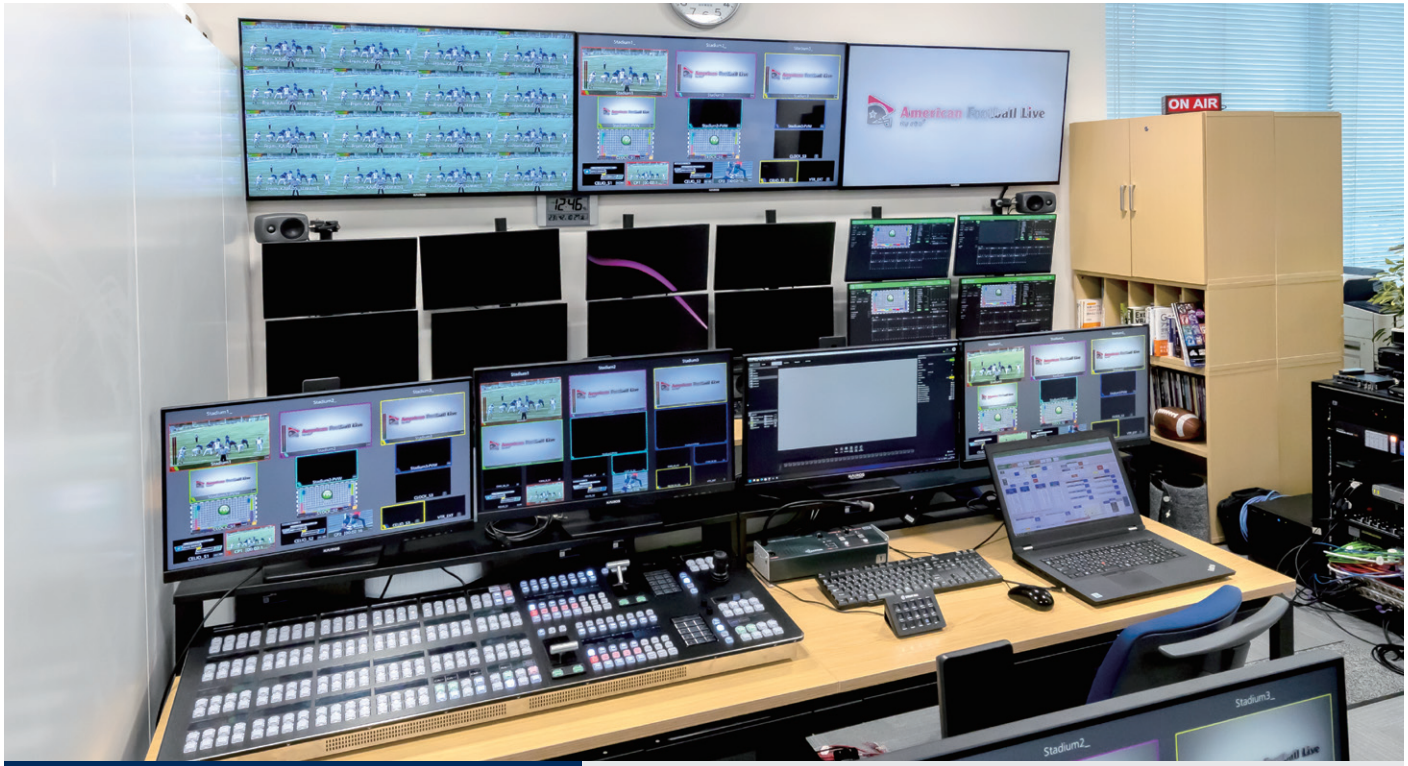
KAIROSを使ったIPリモートプロダクションで複数のスポーツ中継を同時制作。



株式会社rtv様

導入時期：2023年8月
導入地域：関西

課題

複数番組の同時配信を、高いクオリティでシームレスに行いたい

解決策

IT/IPプラットフォームKAIROSを活用しフルIPのリモートサブを構築。各中継現場からの映像を一括で受け、安定したリモートプロダクションを実現

1台で完結できるオールインワンのシステムでありながら、できないことはないレベルの性能だと感じています。

株式会社rtv
代表取締役
須澤 壮太 様

※所属は納入時のものです。

背景

複数番組の同時配信に対応可能なリモートサブを構築

アメリカンフットボール専門の動画配信サービス「アメフトライブ by rtv」やサッカー、野球、ラクロス、駅伝、ロードレースなど、様々なスポーツ競技のライブ配信事業を行っている株式会社rtv様。学生や社会人リーグを中心に連日数々の競技映像を配信し、多い時で10試合同時配信を行うこともあるといいます。そこで同社では、各現場の中継映像を1か所に集約し、集中管理しながらリモートで制作することでクオリティの維持・向上を実現するシステムを検討。IPスイッチャーを活用した新しい受けサブシステムの導入を決定しました。

導入した理由

フルIPを第一条件に使いやすさと安定性を重視

現場とリモートサブがシームレスにつながるIPスイッチャーを求めてシステム選定を行った結果、IT/IPプラットフォームKAIROSを採用。株式会社rtv代表取締役の須澤壮太様は、「KAIROSはIPで全て完結できることはもちろん、ハードウェアスイッチャーと同レベルの安定性があり、設定や操作も分かりやすいため安心して使用できると感じました。また、多数の機器を組み合わせることなく複数現場の映像・音声を1台のKAIROSで受けることができ、まさに我々のようなライブ配信事業者に適したオールインワンスイッチャーだと思いました」と語ります。

技術とアイデアでスポーツの魅力を伝える

株式会社rtv様は、2011年12月に立命館大学アメフトチームの試合を配信する学生ベンチャーとして誕生しました。その後、関西学生アメリカンフットボール連盟の公式ライブ配信を開始し、次々と事業を拡大。現在では読売テレビ本社内、朝日新聞東京本社内の2拠点に事務所を構え、連日多くのファンにコンテンツを届けています。

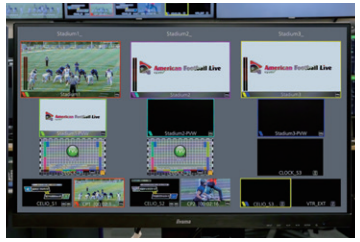
■ 所在地：大阪市中央区城見1-3-50 読売テレビ本社 east base 2F
■ URL：https://rtv.co.jp/

▲ 株式会社rtv様 大阪オフィス

IT/IP プラットフォーム“KAIROS”

▲ ライブ配信中のリモートサブの様子。この日は複数の競技場からの映像にテロップ・CM挿入等を行う番組制作が行われた

▲ rtv様のサブ全景。中央列にコントロールパネルを配置し、その隣と後ろには「Kairos Creator」用のPCを配置



▲ 3番組の映像が一括で確認できるマルチビュー画面

▲ KAIROSメインフレームが格納されたラック。1Uのコンパクトな筐体でスペースを取らずに設置できると好評

導入後の効果

簡単オペレーションでライブ映像制作を効率化

KAIROSは、映像効果をつくるGUIソフトウェア「Kairos Creator」を使ってPCから直感的に画像合成や各レイヤーのトランジション設定を行うことが可能です。須澤様は、「当社では学生のインターンやフリーランスの外部オペレーターが操作することがありますが、KAIROSはKEYやDSKの概念がないため少し学べばすぐに理解できるほど分かりやすいつくりになっています。また、アメフトの中継では現場のスコアボードを加工してCGに乗せることがありますが、どんな画角でも縦横自由な素材が扱える点は便利ですね。KAIROSによって頭の中の制約がなくなり、できないことはないレベルの加工が可能になりました」と語ります。

マクロ機能を活用し、CMのTAKEをワンボタンで実行

フレキシブルにボタンを割り当てることができるコントロールパネルは、ライブ配信中の運用性を大きく向上しました。須澤様は、「コントロールパネルがフリーアサインな点は非常に便利で、特にマクロ機能は重宝しています。例えば試合のハーフタイムにCMを挟む際、そのCMの素材をマクロに登録しておけば本番では素材を選択してコントロールパネルのボタンをTAKEするだけで配信が可能です。マクロ機能のおかげで誰でも簡単に操作でき、人為的ミスもなくなりました」と語ります。

フリーレイアウトのマルチビューで配信映像を集中管理

位置や表示サイズを自由に選択できるマルチビューワーは複数同時配信を行うrtv様の運用に最も貢献している機能だと須澤様は語ります。

「当社ではKAIROSを使って3番組同時オペレーションを行うことがあるため、マルチビューは3番組の中継映像が一括で見えるようオリジナルでレイアウトしました。このマルチビューの柔軟性はKAIROSに触れた誰もが便利だと言いますね」

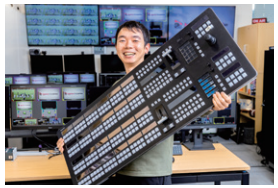
■リモートプロダクションの運用イメージ図

※StreamHUBを使用時は最大16現場を運用。

お客様の声

KAIROSを使ってスポーツ中継の現場改革を目指す

KAIROSの導入により、IPを活用したシームレスなオペレート体制と、1拠点集中管理体制による複数現場の同時進行という、目指していたリモートプロダクションの形を実現することができました。今後は、地方拠点の構築やリモートコメンタリーに加え、機動性や拡張性の利点を活かし、中継車による番組制作以上の品質がエリア関係なく行える体制づくりを目標としています。KAIROSを使ってスポーツ中継の現場改革へ挑戦し、ファンの皆様にもっと競技の魅力を伝えていけたらと思います。



株式会社rtv
代表取締役
須澤 壮太 様

※所属は納入時のものです。

納入会社紹介 アスヒラク株式会社 様

ホームページ
https://asuhirac.jp/

▲ 大阪本社には、次世代システムをお客様とともに創造していく検証ルームを設置

▲ rtv様のシステム構築を担当したアスヒラク株式会社の森脇成紀様

納入機器

KAIROS

メインフレーム Kairos Core 100
AT-KC100T ×1

コントロールパネル Kairos Control
AT-KC10C1G ×1

Kairos Creator
AT-SFC10G ×2

オーディオミキサーオプション（ソフトウェアキー） **AT-SF005G** ×1

Panasonic CONNECT

納入会社： アスヒラク株式会社

発行： パナソニック コネクト株式会社
〒571-8503 大阪府門真市松葉町2番15号

その他の納入事例に関しては、ホームページをご覧ください。

https://connect.panasonic.com/jp-ja/products-services_proav

2023.11.UN
AJ-JJR23RTV